

父さんあなたは今でも
男であろうとするじゃないか

sakamoto

目次

1. 父さん あなたは今でも男であろうとするじゃないか
2. 君のことをいつだって大切に思ってるよ
3. 大久保通り
4. ゆっとくけどしげちゃんのはきらいじゃないし
5. 時には営業部長と名刺交換することも必要だよ
6. 駅に降りてバスに乗って桜並木を抜けると君の家が見える
7. さすが児童会会長だよ
8. ホッピーたのんでさ なか4回ぐらいいっちゃうだよ
9. ティーポイントカードの件について
10. 悲しみに酔いしれてうつむいて歩くとき
11. 中央線に快速が相応しいように
12. まさかここところでマクドナルドになるとは思わなかったよ
13. 君のチョイスは賞賛に値する
14. おらぁもうてっきりぜつぼうふきんだよ
15. ヘリコプターに乗ってずいぶん遠くからいつまでも君を見ていたい
16. 細胞らしきこんにゃくゼリー
17. 京葉線はキミを見習うべきだと何人かの県民は思ってるよ
18. もう一度会えたら言うよ
19. 約束だからここにいる
20. 底なしの女
21. 僕たちがいるのはまるでそんなところ
22. 甲州街道
23. バランスはいつも保たれていた 想像の林の中で
24. 彼女のまわるメリーゴーランド
25. 明日からの帰り道にたたずむ女
26. 明日のまちのあつい風

父さん あなたは今でも男であろうとするじゃないか

あなたの取り去った痛みが
今 僕の中で張り裂ける
どんな風に死んでいこうか
ただそれだけを考えて生きてきた
どうしていつも決められていたんだ
父さん あなたは今でも男であろうとするじゃないか

ワケ知り顔の女たちが笑う
僕はこれみよがしにおどけてみせる
するとおろしたてのやさしきで
頬刷りしてくれる
もう何もかもなくなっちゃった
母さん あなたのやり方は間違っていたよ

何がいけないのかは分かっていた
何が正しいのかさえも
すべては僕の怒りの中で
すべてはあなたとの暮らしの中で
例えばあなたが生きてきたように
そして 僕が生きていくように

君のことをいつだって大切に思ってるよ

君のことをいつも大切に思ってるさ

ワイズマートで裂けるチーズを買ってる時だって君のことが気になって仕方がなかったよ

あれからどうしてた

ずい分と久しぶりだけど

明日っから衣替えだね

腰痛は治ったのかい

靴買ったの 新しいけど

少し痩せたかい

どう思う 普天間

お母さんは変わらない

お父さんは そうそう去年亡くなったんだよね

そのジーンズいつ洗った

今年は不作らしいね

でも君が元気そうでよかったよ

君のことをいつだって大切に思ってるさ

サンドラッグでビタミンCを買ってる時だって君にはグルコサミンのほうがいいかなと考え込んだぐらいだよ

なんだか寒いね今年は どっちかっていえばさ

朝ごはんちゃんと食べてる

北朝鮮はどうなってるんだい

左手の人差指の爪の先から血がでてるよ

5月だってのに花粉がすごくない

近頃の運動会って5月にやる所が多いんだよね

ポンタは相変わらずかい

とにかく君が元気そうでなによりだよ

大久保通り

雨の日の新大久保の駅前ってのはどうしてあんなにごった返しているんだい
信号が変わったから横断歩道を渡ろうとするとタクシーは突っ込んでくるし
自転車は縦横無人だし

ところがそれで歩行者がうろたえるかといえば平気なんだけどね

それで車に乗ってたりすると大久保通りはまるで戦場さ

そんな言い方すると戦場を知ってるみたいだって いやもちろん知らないけどさ

そういう言い方っておかしいかな 戦場って言い方さ

戦場じゃあないけど 中越地震の被災直後を見る機会があってさ 戦場ってあんな感じなのかなって思ったよ 自衛隊が炊き出しや野外テントのお風呂を設営しててさ もうただただ破壊なんだよ 理不尽な破壊だよ 突然の破壊さ 家が潰れて 山が崩れて 道路がグダグダになって 人が亡くなって でもみんな穏やかなんだよ びっくりするくらいものすごい体験してるのに 淡々としてたりするんだよね こっちが恐縮するくらい気を遣ってくれたりするんだよね 日常がひっくり返されたっていうのにさ たいへんでしたねって声かけると そうなんですよおーって一生懸命説明してくれんだよね 傾いた家の前でね 開かなくなった玄関の引き戸をガシガシいわせながら開けてさ それも笑顔でさ オレなんかどんな顔して聞いて良いか分かんなかったんだけど とりあえず笑顔じゃなくて 神妙な顔作っておいたけどね 人って強いなーって思ったよ 生きてるんだよね どんなどころでもさ 恐らく戦場でもそうなんだろうなって思ったりするわけよ

ゆっとくけどしげちゃんのことをきらいじゃないし

つうわひんしつがどうもなんだよね

はなしてるとちゅうでわけわかんなくなっちゃうんさ

ぼくはいっしょうけんめいはなしてるんだけどどうもしげちゃんにはつうじてないんさ

なんでなんだろう ぼくはしげちゃんのことだいすきってわけでもないけどふつうぐらいにはすきなんだがね

だからふつうにはなしてて とちゅうでなんかはなしがかみあわないな—とおもったりするとふつうにいっしょうけんめいはなしてみたりするんさ

するとなんだかよくわかんないうちにはなしのないようがつかめたりするんだけどそれであんしんしたりするとけっきょくわけわかんなくなるんさいっしゅんのうちに

それでおもったりするわけけいたいにもんだいがあるんじゃないかって

そういえばとちゅうできこえなくなっちゃうことがあるんよ それでもかまわずはなしたりするんだけどやっぱりそれってまずいんか

ぼくもしげちゃんがなににってるかよくわかんないし やっぱりつうわひんしつがまずいんか それって

ゆっとくけどしげちゃんのことをきらいじゃないしふつうにすきなんさ だからつうわひんしつだけのもんだいだとおもうんよぜったいに

ぼくとしげちゃんのしんみつどとかあいしょうとかにんげんかんのひんしつにはもんだいがないとおもうんさぜったいに

つうわひんしつのもんだいなんだよ

時には営業部長と名刺交換することも必要だよ

いつか会えるといいね

そう思いながら手を振る

君と君の家族がいつも笑顔でいられるように

時には辛いことがあってもいつまでも悲しんだりすることがないように

そう思いながら手を振る

変わらずにいることはけっこう骨が折れると気付いた時 君の傍にいる誰かがゆっくりと呼吸を
していてくれますように

そう思いながら手を振る

どうでもいいことが多すぎるけど やっぱりはじまりのすべてはどうでもいいことなんだと思え
る時がくるのかな

君の傍にいるのは電柱だけだと気付いたとしてもクサったりしないように

時には週3日しか仕事のない派遣社員と闘うことだってあるさ

君の方が万事うまくことが運んでいるかもしれないしね

時には世界を相手に闘ってみるといいさ

自分自身と闘うより容易いと分かるから

時には接待費を自由に使える営業部長と名刺交換することも必要だよ

君が名刺なんか作ったことがないとしてもさ

君がどこにも所属してないただ通りすぎるだけの人であったとしてもさ

生きるには勇気が必要だと教えてやれるのはたぶん君のほうだから

駅に降りてバスに乗って桜並木を抜けると君の家が見える

駅に降りて

バスに乗って

桜並木を抜けると君の家が見える

白い陽射しがバスに溢れ

高まる思いと解け合い

桜色に染まる

窓にもたれ心放ち

君の温もりに触れた

記憶の彼方に飛んで

長い時間が過ぎていた

君の仕草が思い出せない

もうすぐ君に会えるのに

どこへ行くの

あなた一人で

君の言葉が辛くて桜散るの見てた

駅に降りて

バスに乗って

桜並木を抜けると君の家が見える

さすが児童会会長だよ

そんなの覚悟の上だよ12年も生きてるからね

そうなのかそんなの納得いかないけどな54年しか生きてないから
児童会会長ってそういうもんなんだよ そうでないとやってられないんだよ

オレだって て思うときはないわけ児童会会長って
そりゃあ あるさ 時にはね キレることだって でもそうしょっちゅうキレるわけにはいかな
いでしょ

いやオレにはよく分からんよ 54年しか生きてないから
だから感動もののDVD借りたりするワケ

時には感動が必要なんだよ 感動することがめっきりないからね そうじゃないか よく分か
んないけど

そんなの借りなくたって自分で自然に戻っちゃうんだよ 普通の心に 児童会会長ってそうい
うもんなんだよ

そうなんか児童会会長って すげーな じゃあウエンディーズが無くなる時だってあそこのハ
ンバーガー買いにいっ たりなんか しないんだ えっ 買いに行ったのか そう それはいい
んだ そうゆうのとは違うんだ児童会会長って

じゃ あれか 年末ジャンボなんか買ったりしないんだろ 一攫千金を狙う宝くじなんか え
っ 買ったのかお父さん に頼んで1枚だけ それで どうだった 外れたのか それで当た
ってたらどうするんだ えっ お父さんに借りた1000円で買ったから 半分はあげるのか
当たってたらとしたら

すげーよ さすが児童会会長だよ

ホッピーたのんでさ なか4回ぐらいいっちゃうだよ

90円の焼鳥屋が無くなっちゃったんだよ

大久保駅から15秒で行けたのに

ある日シャッターが閉まったままだったから珍しく休みかなと思ったんだけど

次の日もその次も店が開かないんだよ

ホッピーたのんでさ なか4回ぐらいいっちゃうだよ

安いんだよ 一串90円だもん 豚キムチうまかったね380円

ずいぶん人が入ってたようだけどね 断ってるくらいだったのに

若い外人の男と日本の女が英語で話しててさ 大声で 私えいごで会話できます...みたいな

うるせえんだよ なんだかさ でもうるせーぞ視線送れねー...みたいな

そういえばはなまるうどんもやめちゃったしね かけとエビのかき揚げで280円 安いよね うまいし

よく行ってたんだけど これも知らないうちに閉店してたんだよ

だから最近コンビニだねもっぱら 昼飯の話だけど 河内屋もあるし 100円ローソンもあるし

ティーポイントカードの件について

ですから ティーポイントカードは持ってませんから
昨日も言ったよ いいえって
ティーポイントカードをご利用ですか って聞くから いいえって
そりゃあ 一日に何百って人が来てオレのことなんかいちいち憶えてないんだらうけど
それでも けっこう来てるよ オレ
やっぱりなにか 持ってたほうが良い ティーポイントカード
ないとまずい ティーポイントカード
だって最近ツタヤ行かないし
だいたいDVDはゲオのほうが安いし近いし
だからティーポイントカード必要ないんだよな ゆーこ一期限切れてるし
ツタヤが嫌いなわけじゃないんだけど ファミマで言われる筋合いないし

たぶん ゆーこ一期限内のティーポイントカード持ってても
いいえって 言うと思うよ オレ
そーゆーのなんだかいやなんだよな
ティーポイントカード握りしめてレジに行くのって いやじゃない
オレだけかな レジが女の子だとよけいそう思うんだよな
内心で 男のくせにティーポイントカードなんか集めてんじゃねえよ なんて毒づかれてるんじ
ゃないかなって思ったりするんだよな
そーゆーのってない 男のくせにとか いい年こいてとか 息くせーくせにとか 襟立ててるくせ
にとか 分かったようなこと言うくせにとか 斜に構えてるくせにとか

ポイントってお得なんだらうけど 実のところ損なのかもしれないし
みんながお得なわけだろポイントって ということは誰も損してないわけだろ
ということは誰も得してないってことじゃないか それって損してるってことだよな
そんな風に考えるのオレだけかな そうなんだよ よくひねくれてるっていわれる
でも損して得とれっていうだろ だから お得には正直 惹かれないこともないけど
やっぱり 何となく馴染めないんだよな ティーポイントカード

どんな顔して出せばいい 例えばだけど
表情なんかいらないんだらうけど レジの女の子の顔は見ないほうがいいよな ティーポイン
トカード出すとき
目なんか合わせないほうがいいよな うつむいたままがいいよな 片方の手はポケットに突っ込
んでたりしたほうがいいかな ティーポイントカード出すとき
ほんとはいらないんだけどあんたが言うなら出すよみたいな感じでいいだらう ティーポイン

トカード

それともとぼけたふりして えって 小さく声を上げて ああ ティーポイントカードってこれのこと なんて言いながら財布から取り出したりしたほうが いいか

そうすると ティーポイントカードを作らないといけないってことじゃないか つまりは やっぱりだめだ そんなこと言えない 大の大人が

だから いいえって 言い続けるしかないな ティーポイントカードの件については

悲しみに酔いしれてうつむいて歩くとき

悲しみに酔いしれてうつむいて歩くとき
ふと見上げると友達と呼べるお前がいた
励ますほどの言葉も持ち合わせないが
時折見せるお前の笑顔が目に浮かぶ

お前はお前でオイラはオイラ
それぞれの泣き笑いを噛み締めるだろう
会っているときは取り分け話すこともないが
離れているとお前の笑顔が眼に浮かぶ

幸せって何だと 酒に身を任せ
うまくやれよとため息ひとつ
だけどいつかは帰り行くさ
あの頃確かに息衝いていたんだと

中央線に快速が相応しいように

どうして僕は君じゃないんだろ

どうして君は僕じゃないんだろ

僕が君であってもよかったはずだし

君が僕であってもちっともかまわないのに

僕は最初から最後まで君をやりとおせる自信にあふれているってのにさ

僕ならもっとうまく君をやれると思うよ

君が君らしくないことを言ったときなんか心底そう思うよ

ほら こないだ道を尋ねられたとき あっけなく分かりませんって言ったじゃない

そんなの君らしくないんだよ 分からなくても分かったふりして教えるのが君じゃないか

君は堂々と君をこなすべきだよ

僕ならもっとうまく君をやれるんだがな

それと横断歩道を渡るときはぜったい右足から踏み出すべきだよ

左足はやめたほうがいいって

なぜって 理由はないけど君には右足が相応しいんだよ

中央線に快速が相応しいようにさ

まさかここんところでマクドナルドになるとは思わなかったよ

そうそう君の言う通りだった
君の言った通りマクドナルドになってたよ
流行らないデニーズだったけど ずいぶん長いことやってたしね
まさかここんところでマクドナルドになるとは思わなかったよ
そういえばマクドナルドのひとり勝ちだってね
低価格メニューが当たったそうじゃない
コーヒーだってただで飲ましてくれたしね
マクゴガナル先生も喜んでるんじゃない

すべては君の言う通りだね
君の予想通りにことが運んでるみたいだね
僕はどうしたらいいかな
どこからどこまでが世界で どこからどこまでが空白なのかよく分からなくなったよ
こんな言い方 まずいかな
とりあえず腰を下ろせるだけの小さな場所がほしいんだけど
こんな歩き方じゃだめかい
ニューバランスがかなり擦り切れてきてるんだけど
こんな4メートル道路じゃ落ち着いてタバコも吸えないよ
こんな言い方 まずいかな
どこからどこまでが領域で どこからどこまでが聖域なのかよく分からなくなったよ

君のチョイスは賞賛に値する

そうそう君の言う通りだ

そっからそのへんまでが君のテリトリーであって

そっからそこんところまでが君のうさんくささで満たされていて気持ちいい

君のチョイスは賞賛に値する

おらあもうてつきりぜつぼうふきんだよ

なんでひやくろくじゅうよんまんどせんさんびやくじゅうよえんなんだよ

どんなにんげんがひやくろくじゅうよんまんどせんさんびやくじゅうよえんはらうんだよ

おれがなにしたってんだよ

そりゃちょっとしたもうけばなしにのったかもしれんがひやくろくじゅうよんまんどせんさんさ

んびやくじゅうよえんもはらわんといかんのかえ

きんりってのがたかすぎるんじゃないのか

そりゃあむぼうってもんだよあんたら

こころがしんどくないかいあんたら ええ

おらあもうてつきりぜつぼうふきんだよ

ヘリコプターに乗ってずいぶん遠くからいつまでも君を見ていたい

ヘリコプターに乗ってずいぶん遠くからいつまでも君を見ていたい

ヘリコプターに乗って君の家に行こう

ヘリコプターに乗って君を助けに行こう

ヘリコプターに乗って山田さん家に宅配便を届けに行こう

ヘリコプターに乗って佐藤さん家にも宅配便を届けよう

ヘリコプターに乗ってついでにここんところ仕事がなくとても残念な気分を届けよう

ヘリコプターに乗ってヘリコプターを見に行こう

ヘリコプターに乗って湾岸道路の交通渋滞を見に行こう

ヘリコプターに乗って九十九里浜の浅瀬に打ち上げられたクジラを見に行こう

ヘリコプターに乗って100年に一度の不況を見に行こう

ヘリコプターに乗って赤坂サカスに降りたってみたい

ヘリコプターに乗ってどこかで落とした自転車のカギを探しに行こう

ヘリコプターに乗ってつまずいた僕を見に行こう

ヘリコプターに乗って親父の墓参りに行こう

ヘリコプターに乗ってそもそもの話しをしに行こう

細胞らしきこんにゃくゼリー

僕は知ってるよ

君は良いやつだって

君を悪く言う人もいるけど少なくとも僕にとっては良いやつだよ

本当だってうそなんかついたりしない

まあ たまにはうそをつくこともあるけどさ 生きてるからね

でも 君は良いやつの部類だよ

本当にそう思うよ 近頃とくにそう思うんだ

歳のせいかな 腰にきてるんだよ 腰に

立ちっぱなしで仕事をしてるせいか 屈むと腰に走るんだよね 電気が ビビッ！てさ

そんな時に 君は良いやつかもしれない信号を 僕の脳の普段は起きてもない細胞らしきこ

んにゃくゼリーが感知するんだよ

だから君は良いやつなんだよ ぜったい

ところで僕はどんなやつなのかな

本当のところを言ってみてくれないか

割と良いやつだと自分では思ってるんだけど

君の身体のありったけを使って感じてみてくれないか

僕は 僕が良いやつなんだと思うんだがな どうだろ

君の身体でビビッ！と感じる瞬間はないかな

例えば僕がこれ見よがしに陳列棚から落ちた商品を元に戻しているときなんかさ

めったにしないけど右折しようとしている対向車を先に行かせているときなんかさ

オレだって生きることがめんどくさくてしょうがないよ と叫びたい気分を抑えているようなと

きなんかにさ

京葉線はキミを見習うべきだと何人かの県民は思ってるよ

キミはキミ以外のなにものにもなる必要はなかったんだよ
キミにとってどうでもいいような存在の人たちの期待にまで応える必要はなかったんだよ
彼らはキミでなくてもキミ以外の誰でも良かったんだから
だからそんなどうでもいいことでへこたれることはないんだよ
たいていのことは夜明け前に片がついているさ

いつまでもそんなことにかかわっているとたまらんぜ
時には逃げ出さないと身体がもたないぜ
そうしたからといたって彼らが深く考えるところを見たことがあるかい
そんなことはただの一度もないよ
キミが彼らとともにいる必要はないしだいたい彼らはほかの誰でもないんだし

キミの身体は充分傷んでいるしそれ以上にハートはボロボロじゃないか
死にかけのホームレスと一緒にどこかの救急センターに運び込まれてもいいぐらいだよ
どんな風が吹いてもキミはやめようとしなないしね
京葉線はキミを見習うべきだと何人かの県民は思ってるよ
だけどキミは彼らじゃないし
彼らはキミでなくてもキミ以外の誰でもいいって思っていることをキミは知るべきだよ

もう一度会えたら言うよ

もう一度会えたら言うよ

本当はそうじゃなかったってことを

そんなつもりじゃなかったってことを

君を困らせるつもりじゃなかったってことを

横断歩道の手前で一時停止しなかったことを

隣の犬を蹴飛ばしたことを

ララポートまでの道をでたらめに教えたことを

優柔不断で迷惑をかけてしまったことを

夕暮れの公園で泣きそうになったことを

これでもいろいろと考えていることを

あてもなく今もさまよっていることを

誰かの悲しみがたまらないことを

あの時やさしくしてもらってほんとにうれしかったことを

もう一度会えたら言うよ 必ずね

もう一度会えたらね

約束だからここにいる

約束だからここにいるよ

たいていのことは気にならないさ

それほどウブでもないし

それほどあこぎでもないつもりだよ

君がそこにいるから僕はここにいる

やがて大切な人がやってくる

約束だからここから離れないよ

いつだってすぐそばにいるさ

どうやっても睡眠不足だけどね

遠い国の選ばれた風を浴びてもさ

君がいるところに僕はいる

やがて大切な人がやってくる

底なしの女

女 おんな 底なしの女

おまえが踊れば世界が踊る

おまえが踊ればまぼろしが踊る

おまえが踊ればなくしたもののダイジェストが踊る

おまえが踊れば不安を配り終えた新聞配達員が踊る

おまえが踊れば配達されない未来が踊る

だから底なしの女

ひととき踊っておくれ

この命の生まれるまでは

女 おんな 底なしの女

おまえが踊れば久々が踊る

おまえが踊れば綺麗が踊る

おまえが踊れば残された日々が踊る

おまえが踊れば漫然とした豊かさが踊る

おまえが踊れば株取引で笑う青色申告者が踊る

だから底なしの女

ひととき踊っておくれ

この命の生まれるまでは

僕たちがいるのはまるでそんなところ

ダラダラとただ長いだけの坂をうつむきながら下っていた

約束通りに昇ってきた光が背中を照らし ほどよいぬくもりが心地よかった
坂の途中にあるコーヒータラスで本当は勝っていたかもしれない負けた人たちが
次のステージでやるべきことをひとり構想している

「正しくはなかったけれど間違っただけではなかった」と繰り返し言葉にしながら

「時間を超える存在がまだ見つからないんだよ」
負けたばかりの不機嫌な不動産屋が野太い声で
連れていたリードの先のチワワに語りかける

「本当のことを知りたくありませんか」
優柔不断な為替ディーラーがCCメールで世界中に送信している
何度も表示されるエラーメッセージ
震える指先がうまくキーボードを捉えられない

ダラダラと長い坂を下る僕たち
歩いている感触
失ってしまった足跡
そこに居ることが分かる偶然
対角線上のエントランス
僕たちがいるのはまるでそんなところ

甲州街道

ひどい渋滞と排気ガスに悩まされながら
甲州街道を流れていく
バックミラーを視界の片隅に置きながら
ノロノロと午後の紅茶を片手に
ラジオはしきりに時報を繰り返していたが
そんなことで深刻になったりはしない
運転席で過ごす2時間なんて
契約書1枚で取り戻すことができる
僕はただ多磨霊園へ帰ろうとしてるだけさ

誰もがひどくイライラしていて
とてもイヤな気分になっていた
割り込みなんてさせない
斜め前の車め
一生懸命に車間距離を詰めたさ
カーナビはしきりに警告していたが
そんなのどうってことはない
メールでは良い人やってるからね
僕はただ多磨霊園へ帰ろうとしているだけさ

バランスはいつも保たれていた 想像の林の中で

どうだい君のサイコーの調子は
ずい分使い込んでいるじゃないか
雨上がりの街角で振り回してたのか
どうりでめそめそしてると思ったよ
まるでどこかの社長みたいだな

気を付けな
いつも誰かが狙ってるぜ
警戒はおこたらずに
玄関の門は厳重に
ドアと窓にはありったけの鍵をつけといた方がいい
だけど頼りになるのはセコムよりアコムだけ

君の後ろに倒れているのはおじさんか
まさかおばさんじゃないだろうな
戦ったのか
どんな風に
幼稚園児のようにか
それとも係長のようにか
情けなかったのか
それで君はどうしてそんなところでバランスを保とうとしてるんだ
想像の林の中にいて

彼女のまわるメリーゴーランド

僕は約束した
彼女を幸せにすると
彼女は黙っていた
それが果たされないことを
分かっていたかのように

彼女は静かに言う
まるで切り札のように
私は永遠であなたは瞬間だわ
そしてそれは簡単な結末よ
あこがれはあわれなものね

行くな 素敵な君
行くな 行かないでくれ

彼女は笑っていた
いつものように笑っていた
僕には分かっていた
彼女が新しい考えに
とりつかれはじめてたのを

それはおだやかで
それはやわらかで
確かな波が打ち寄せる浜辺だね
僕はあてもなく歩くだけの動物
あこがれはあわれなものだね

行くな 素敵な君
行くな 行かないでくれ

僕はいつでも気付かずにいたよ
彼女の閉ざされたままのページ
彼女のまわるメリーゴーランド

明日からの帰り道にたたずむ女

泣いているのか たたずむ女
笑ってみせろよ 愛されているのと言って
退屈にまみれたいくつもの夜を
透かした体に映してしているのか
果てしなく生まれる閉ざした想いを
振り返りながら見送っていた
遠くで怯える子らの傍らには
それでもかすかに輝くあかり
行方のしれない坂の上のまちが
辿ったはずの100年
明日からの帰り道にたたずむ女は
仰いだ空で朝を待った

明日のまちのあつい風

明日のまちにあつい風が舞う
背中を忘れた通り魔がひと息いれる
大人を忘れた子どもたちは
得体のしれない優しさでひと息いれる
誰も傷つかぬよう
誰もが報われるよう

ビルの谷間で明日が試される
決断と勇気が引き合いに出され
競い合って華は咲き乱れていたが
華やかさには意味がなくなっていた
誰も傷つかぬよう
誰もが報われるよう

穏やかな父は愚かさについて説く
激しい母はしたたかさについて説く
何もない息子は祈るようにつぶやく
すべてのひとが死に絶えるようにと
誰も傷つかぬよう
誰もが報われるよう

やけに陽気な居酒屋で滅入った数だけあおる
転がっていた暗がりを片手で弄び
100の嘘に苦しみ一つの真実を求めていた
一つの嘘を嘆き100の真実を突き放した
誰も傷つかぬよう
誰もが報われるよう